

confidential



ハンズオン研修カタログ

2023年 5月



会社概要

代表取締役	石川 聡彦 (Akihiko Ishikawa)
会社理念	先端技術を、経済実装する。
所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー6F
技術アドバイザー	國吉 康夫 (東京大学大学院情報理工学系研究科 教授) 木下 祐介 (東京大学大学院工学系研究科 准教授)
ワークショップ アドバイザー	川越 至桜 (東京大学生産技術研究所 准教授)
株主	経営陣, 東京大学エッジキャピタルパートナーズ(UTEC), Skyland Ventures, 大和企業投資, ダイキン工業, テクノ プロ, 古河電気工業, 日本ゼオン, 東京大学協創プラット フォーム開発(東大IPC), 千葉道場ファンド, KDDI地方創 生ファンド, 個人投資家
資本金	8.0億円 (2022/11/30時点、資本剰余金含む)
従業員数	従業員数 : 108名 (2022/11/30時点、アルバイト含む)

加盟団体

Keidanren
Policy & Action

JSAI 一般社団法人
人工知能学会
The Japanese Society for Artificial Intelligence

一般社団法人
日本ディープラーニング協会



CDP
ACCREDITED
PROVIDER
2022

導入企業

DAIKIN

FURUKAWA
ELECTRIC GROUP

三井金属

AISIN

日本ガイシ
NGK

AsahiKASEI

三井化学

YKK
Little Parts. Big Difference. >>>

TECHNOPRO

UCHIDA

NTT DATA

NS Solutions

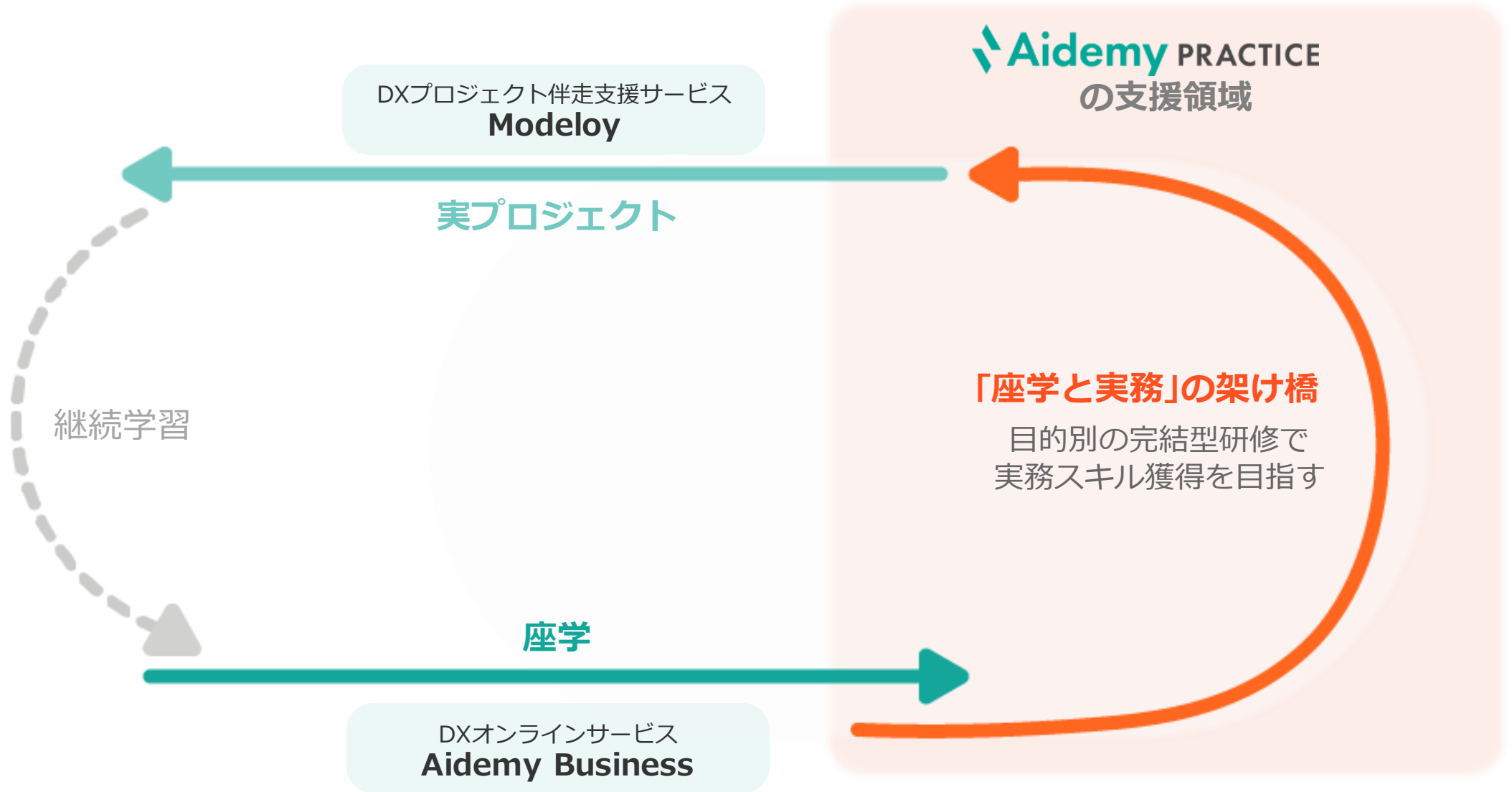
SEIKO
セイコーソリューションズ株式会社

SOMPOシステムズ

大和証券
Daiwa Securities

MAZDA

支援領域



実践的なスキル取得を目指すDX/AI研修

3つの特徴

- ✔ アウトプットを通して、スキル習得を目指す
ワークショップ・ハンズオン形式がメイン
- ✔ 質疑応答・フィードバックなど
相互的なコミュニケーションが取れる
- ✔ 適度な緊張感が学習能力アップの手助けになる
オンラインのリアルタイム受講

Two large teal geometric shapes, resembling parallelograms, are positioned on the right side of the page. One is in the upper right and the other is in the lower right, both slanted at an angle.

Aidemy PRACTICE 研修一覧

Aidemy PRACTICE 研修一覧

ステップ	テーマ						
	業務改善		事業企画		機械学習モデル開発		
	4 ... 実務	1on1コンサルティング				Modeloy Support (別サービスにてご支援)	
		3 ... 実践	デジタル 業務改善WS	AI活用企画 ワークショップ [短縮編, 中上級編]	UX企画 WS	DX事業立案 WS	Python実践研修
			2 .. 基礎	[Power Automate] RPA研修	[Power BI] データ可視化 研修	ビジネスモデル 変革WS	AI開発 ハンズオン研修
1 . 入門				プロフェッショナル講演			

各研修の詳細



プロフェッショナル講演

概要



受講対象者

- ✓ DX・AI・GXについて、リテラシーを学びたい方
- ✓ DX・AI・GXについて、社内外で適切なコミュニケーションを図るための基礎知識を身につけたい方



参加者例 (過去実績)

新入/若手社員～役員まで



所要時間

～3時間 x 1日



価格

最少価格(税抜) **50万円**
参加人数：100名

参加人数の追加 **5万円/100名**
実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

講演の種類



ビジネスパーソンのための
DX入門



投資対効果を最大化する！
AI導入7つのルール



GXリテラシーアップ研修

プロフェッショナル講演 (DX)

[詳細](#)

講師名	中山心太 講師	石川聡彦 講師
講演 コンセプト	DX入門セミナー 経営層向け危機感醸成	DX入門セミナー 担当者層向けDX最新事例紹介
講演内容	○ DXの前提となる環境変化 ・ 社会環境の変化 ・ アジリティの源泉の変化 ・ DXレポートの解説 ○ DXとは ・ 本来の Digital Transformation ・ デジタルネイティブな組織とは ・ 業界別DX事例集 ・ DXを推進したいならDXという言葉を使うな	○ DX/AI活用概要 -守りと攻め- ・ DXとは？ ・ 守りのDXと攻めのDX ○ 守りのDX ・ デジタルでの業務効率化- ・ 守りのDXの3ステップ ○ 攻めのDX ・ ービジネスの7つの要素と代表事例ー ・ DX事例の7つの要素

プロフェッショナル講演 (AI、GX、ChatGPT)

[詳細](#)

講師名	石川聡彦 講師	柳田晃輔 講師	中山心太 講師
講演 コンセプト	投資対効果を最大化する！ AI導入7つのルール	GXリテラシーアップ研修	ChatGPTセミナー
講演内容	○ 投資対効果を最大化する AI導入7つのルール ・機械学習の投資対効果を明確にすべし ・「使えるデータ」と「使えないデータ」を把握すべし ・機械学習で狙うべき領域を同定すべし ・インプットとアウトプットの解像度を高めるべし ・機械学習の性能を正しく評価すべし ・実運用のイメージを高めるべし ・ステークホルダーとのエコシステムをつくるべし ○ 実例で学ぶビジネスAI企画書の鉄則	○ GXとは ・ GX 言葉の定義 ・ Why: なぜGXを進めなければならないのか ・ What: 何に取り組むのか ・ how: どのように取り組むのか ○ GXにおけるビジネスチャンス ・ 守りのGX・攻めのGX ・ 10年150兆円のGX市場 ○ 各産業の国内外動向・注視ポイント ・ 自動車業界のGX ・ 建築業界のGX ・ 繊維・衣類業界のGX	○ 機械学習技術の地図 ○ 従来のIT産業 ○ 機械学習の普及、ディープラーニングへ ○ トランスフォーマーの登場、生成的AIへ ○ 生成的AI時代の「プログラミング」 ○ 「プログラミング」の変化 ○ ChatGPT製「プログラム」の書き直し ○ 「優秀な人材」の定義の変遷、プログラマーの仕事の変化

[Power Automate] RPA研修

概要



受講対象者

- ✓ RPAを活かした業務プロセスの自動化の流れを体験したい方、プロセス自動化を検討している方
- ✓ Power Automateの操作をハンズオン形式で学びたい方



参加者例 (過去実績)

新入社員

若手



所要時間

3時間 x 2日



価格

※想定職位：中堅・リーダー

最少価格(税抜) **90万円**

最少催行人数：15名

参加人数の追加 **6万円 /1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

[Aidemy Business] RPAカリキュラムの受講(2.5時間)
Power Automate Desktop のインストール

研修の流れ

業務プロセスの自動化
の基礎を学ぶ



Power Automateの基礎を学び
ハンズオン体験



自らの業務の
自動化にチャレンジ

[Power Automate] RPA研修

概要

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1	オープニング	5	●
	2	業務プロセスの自動化とは	5	●
	3	Power Automateとは	5	●
	4	Power Automateを活用した事例 エンジニア未経験者が1ヶ月半で、月次の業務報告書回収作業を自動化して、60時間の工数を削減！した事例	10	●
	5	Power Automate Desktopの基本操作ハンズオン レコーダー、メッセージ表示、条件分岐、変数、演算子、繰り返し処理、Excel処理	155 (うち15分休憩)	●
	6	クロージング（まとめ/質疑応答）	10	●
2回目	1	オープニング	5	●
	2	Power Automateを活用した実践的なハンズオン Excel処理、値の読み取り、値の入力、転記、保存	50	●
	3	グループディスカッション 自動化したい自身の業務について	65 (うち15分休憩)	●
	4	実際に自身の業務の自動化にチャレンジしてみる	50	●
	5	クロージング（まとめ/質疑応答）	10	●

※デスクトップ版を利用した想定です。

[Power BI] データ可視化研修

概要



受講対象者

- ✓ Power BIを基礎から学び、使えるようになりたい方
- ✓ ローコードBIツールを活用して、業務改善をしたい方



参加者例 (過去実績)

新入社員

リーダー



所要時間

3時間 x 1日



価格

最少価格(税抜) **90万円**

最少催行人数: 30名

参加人数の追加 **3万円/1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要



課題

- 下記ができるPCの準備
- Power BI Desktop にサインインして開ける
 - Excelが使用できる

研修の流れ

BI とは何かを自分の言葉
で語れるようになる



Power BIで
ETLができるようになる



Power BIで
モデリングができるようになる



Power BIで
ビジュアライズができるようになる

[Power BI] データ可視化研修

詳細

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1 データ可視化のプロセス データ収集、蓄積、加工集計、可視化	15	●
	2 何のためにデータを可視化するのか？	10	●
	3 BI (Business Intelligence) とは何か？	10	●
	4 Biで扱うデータとは何か？	10	●
	5 Power BI の紹介	5	●
	サンプルデータを用いたハンズオン データソース接続	45 (うち10分休憩)	●
	6 データ取得 (Extract) 変換、整形 (Transform) モデルへの読み込み (Load)		
	サンプルデータを用いたハンズオン モデリングの各種設定		
	7 リレーション 計算列 メジャー	45 (うち10分休憩)	●
	サンプルデータを用いたハンズオン ビジュアライズの設定		
	8 テーブル (表) マトリックス (クロス集計表) 折れ線グラフ 棒グラフ	40	●

※デスクトップ版を利用した想定です。

デジタル業務改善ワークショップ

概要



受講対象者

- ✓ デジタルを活かした業務改善の流れを体験したい方
- ✓ 課題から業務改善の企画を検討したい方



参加者例 (過去実績)

現場リーダー

部長



所要時間

3時間 x 2日



価格

※想定職位：中堅・リーダー

最少価格(税抜) **90万円**

最少催行人数：15名

参加人数の追加 **6万円/1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

特になし

研修の流れ

業務改善の基礎を学ぶ



デジタル化による
業務改善・事例を学ぶ



自社の業務改善の
企画書を作成

▶ 本研修の活用事例：[活用事例03 参照](#)

▶ 本研修内容のご紹介動画：[YouTubeリンク](#)

デジタル業務改善ワークショップ

概要

●: 講義/インプット ●: アウトプット ●: ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1	本日のゴール・アイスブレイク	20	●
		業務改善の基本的な考え方		
		生産性とは何か		
	2	生産性向上には「増やす」と「減らす」が必要 すべての業務を洗い出す 定型業務と非定型業務の割合を算出する 業務改善の4つの方向性を決める	70 (うち10分休憩)	●
	3	デジタル業務改善事例	25	●
2回目	4	その他の業務改善アイディア	20 (うち10分休憩)	●
	5	デジタル業務改善に向けたブレインストーミング	45	●
	1	本日のゴール・アイスブレイク	10	●
		デジタル化による業務改善の種類		
	2	フォーム作成ツールとその活用事例 ビジネスインテリジェンスとその活用事例 RPAとその活用事例	20	●
3回目	3	デジタル業務改善に向けたブレインストーミング 業務フロー 業務改善に役立つフレームワーク 業務改善企画サマリ	90 (うち20分休憩)	●
	4	グループレビュー・ブラッシュアップ・講師からの講評	60	●

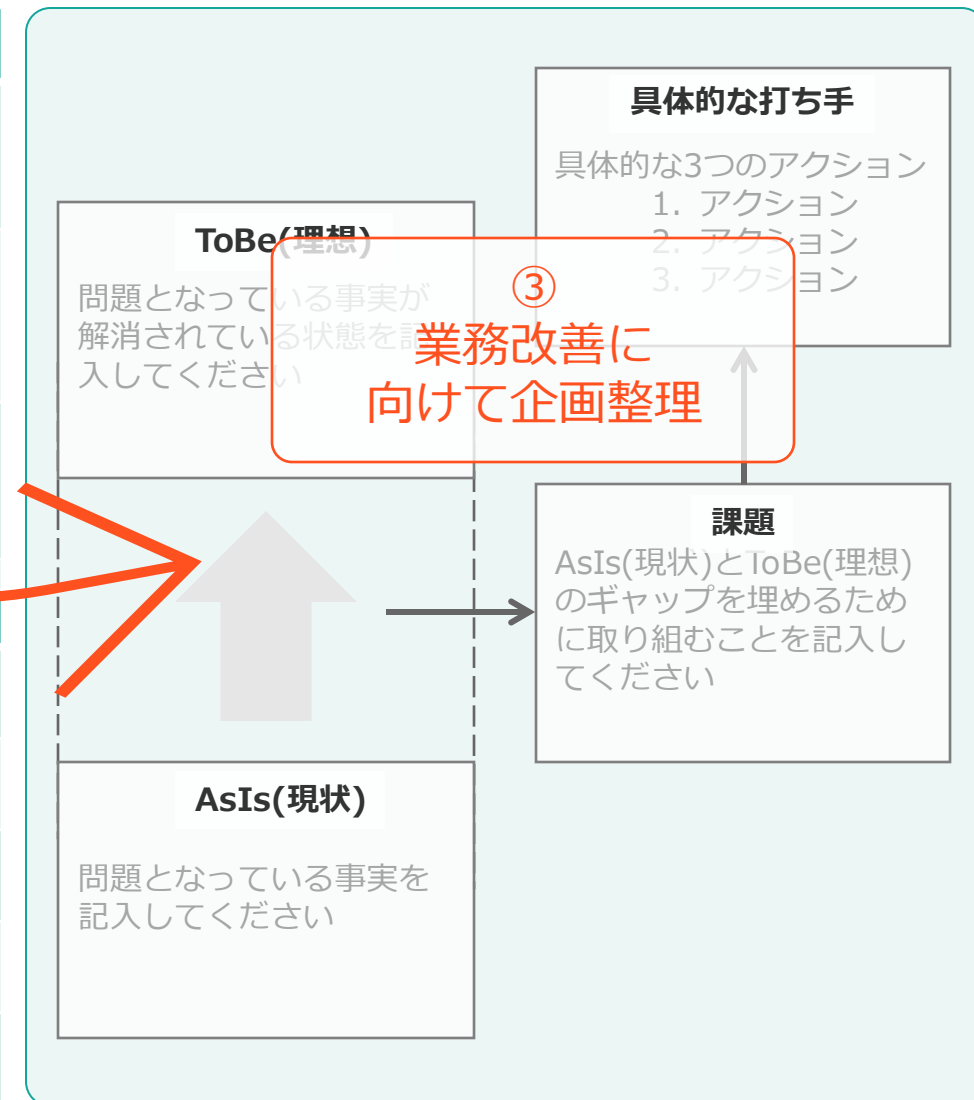
デジタル業務改善ワークショップ

ワーク

業務改善の方向性の分類	打ち手の方向性	対象業務	打ち手案
①強化する業務 - チームの目玉業務 - 関係者への価値提供を期待されている業務	- 時間をかける - 人を増やす - デジタル化しデータを活用する		
②効率化する業務 - 提供している価値の割にムダが多い業務 - 価値はあるが残業や手戻りが多い業務	- プロセスを見直す - 問題の原因を除去する - 作業効率をあげる - 外注化 - デジタル化しデータを活用する		
③現状維持する業務 - 強化したくても予算がない業務 - 効率化したくても現実的な打ち手がない業務 - 効率化を検討する時間が取れない業務	現状を維持する		
④縮小・廃止する業務 - チームの役割や期待価値を勘案すると、たいして意味がない業務 - 人手が足りなくて手が回らない業務 - もはや役割を終えた業務	- 営業時間や - 提供頻度を - やれるとき - 担当者がい		
		業務の5要素	XXX業務
		①インプット	
		②アウトプット	
		③目的・目標	
		④関係者	
		⑤効率	

①
業務課題の
洗い出し

②
強化・効率化する
業務に絞り要素整理



AI活用企画ワークショップ

短縮編

概要



受講対象者

- ✓ 自社でのAI活用の可能性を探るため、AIの基礎を学びたい方
- ✓ AI活用について、社内外で適切なコミュニケーションを図るための基礎知識を身につけたい方

参加者例
(過去実績)

部門長

役員



所要時間

2時間 x 1日



価格

※想定職位：経営・役員

最少価格(税抜) 80万円

最少催行人数：20名

参加人数の追加 4万円/1名

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

特になし

研修の流れ

AIを知る

AIの導入に関する
知識・事例を学ぶAI利活用に関して
グループディスカッション

AI活用企画ワークショップ

中上級編

概要



受講対象者

- ✓ ビジネスでの活用に向けて、AI/機械学習の基礎・企画のポイントを知りたい方
- ✓ AI/機械学習を活用した事業立案を担当している方

参加者例
(過去実績)

リーダー



所要時間

2.5時間 x 4日



価格

※想定職位：中堅・リーダー
最少価格(税抜) **300万円**
最少催行人数：30名

参加人数の追加 **10万円/1名**
実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

1～3日目にAI活用企画ワークに関する事前課題あり

研修の流れ

機械学習の基礎・事例を学び
ビジネス活用へのコツを学ぶ



機械学習で解くべき領域/課題・
ビジネスインパクトを学ぶ



機械学習の開発・運用に関する
基礎知識を学ぶ



機械学習をビジネス活用に関する
サマリ企画書の作成を学ぶ

AI活用企画ワークショップ

短縮編

詳細

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1	AIとは何か	5	●
	2	日常的に使われているAIの概要	5	●
	3	なぜAIを導入しなくてはいけないのか	5	●
	4	AIを導入するには何が必要なのか	5	●
	5	AIの事例紹介	20	●
	6	グループワークショップ	30 (うち5分休憩)	●
	7	ディスカッション 「どんな課題に対して、AI利活用を考えているか」	15	●
	8	全体発表	25	●
	9	講師からのフィードバック	10	●

AI活用企画ワークショップ

中上級編

詳細

●: 講義/インプット ●: アウトプット ●: ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1	自己紹介・会社概要	5	●
	2	本日のゴール・アイスブレイク	5	●
	3	DXが必要とされている背景	15	●
	4	DXとはそもそも何か	15	●
	5	AIの種類 機械学習の分類	15	●
	6	機械学習活用の事例紹介 機械学習のビジネス活用のコツ	20	●
	7	AIを活用できそうな自社の業務やサービス	40 (うち10分休憩)	●
	8	各グループから発表・講師から講評	20	●
	9	まとめ・質疑応答・クロージング	15	●
2回目	1	自己紹介・会社概要	5	●
	2	本日のゴール・アイスブレイク	5	●
	3	機械学習ビジネスキャンパスの紹介	5	●
	4	ウォーターフォールとアジャイルの違い	5	●
	5	制約条件の明確化	15	●/●
	6	機械学習で解くべき領域 解決したい課題の整理と機械学習で解くべきスコープ選定	20	●/●
	7	機械学習とビジネスインパクト 機械学習とヒトのコスト的な違い 機械学習プロジェクトのコスト 「使えない」データと「使える」データ	35 (うち10分休憩)	●/●
	8	機械学習で解くべきスコープのインパクト	15	●/●
	9	コストの整理と優先順位付け	15	●/●
	10	ビジネスシナリオとビジネスインパクトの整理	15	●/●
	11	まとめ・クロージング	15	●

	#	内容	時間(m)	タイプ
3回目	1	本日のゴール・前回の振り返り	5	●
	2	アイスブレイク	5	●
	3	機械学習のモデリング 機械学習と関数	10	●
	4	不均衡データの評価 性能指標	10	●
	5	分析目的とは?	15	●/●
	6	入力データと出力データ	5	●
	7	成果基準	15	●/●
	8	機械学習のデブロイ エッジとオンプレとクラウド 機械学習と精度変化 前提条件の変化	45 (うち10分休憩)	●/●
	9	企画書まとめ	5	●
	10	AIプロジェクトの推進・失敗例	5	●
	11	AIプロジェクトチームの構成	5	●
	12	取り組みフローと内製・外注 プロジェクトのポートフォリオ	5	●
	13	競争優位の実現	5	●
	14	PoCから実運用へ 本導入前の確認ポイント	5	●
	15	まとめ・クロージング	15	●
4回目	1	本日のゴール・前回の振り返り	5	●
	2	「プランニング」まとめ	20	●
	3	「モデリング」まとめ	20	●
	4	「デブロイ」まとめ	20	●
	5	サマリ企画書の作成	20 (うち10分休憩)	●
	6	受講者1人ずつ企画書をプレゼンテーション 講師から講評	50	●
	7	まとめ 研修全体のまとめ・クロージング	15	●

AI活用企画ワークショップ

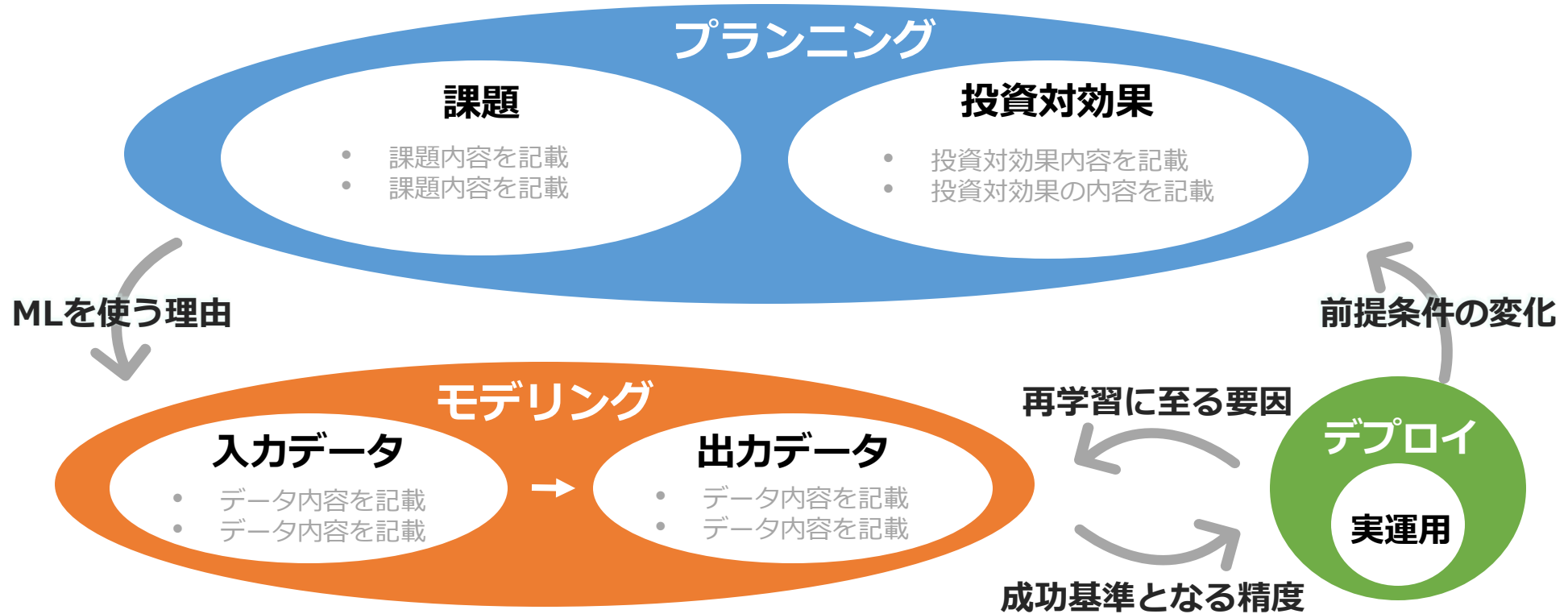
短縮編

中上級編

ワーク

機械学習ビジネスキャンバス (サマリ企画書)

AI活用テーマを記載

機械学習ビジネス
キャンバスの使い方入門編：グループ単位で取り組む
中上級編：個人単位で取り組む、ワークショップの2～4回目にて活用

ビジネスモデル変革ワークショップ

概要



- ✓ 事例から、ピボット(事業変革)のポイントを学びたい方
- ✓ 事業の変革必要性を感じている方、事業変革の企画を検討したい方



現場

リーダー



3時間 x 1日



価格

※想定職位: 中堅・リーダー

最少価格(税抜) 90万円

最少催行人数: 30名

参加人数の追加 3万円/1名

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



事前課題

[Aidemy Business] 動画1コース受講(1時間)

研修の流れ

7つの衰退産業における
ピボット(事業変革)の事例を学ぶ



学んだ事例の
成功・失敗ポイントを学ぶ



自社における
ピボットアイディアをまとめる

▶ 本研修の活用事例: [活用事例05](#)

ビジネスモデル変革ワークショップ

[詳細](#)

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1 はじめに(DXとは)	10	●
	衰退産業のピボット事例		
	カメラ産業		
	オーディオ産業		
	2 テレビ産業	40	●
	小売り産業		
	新聞・雑誌産業		
	レンタルDVD産業		
	金融産業		
	成功した事例/失敗した事例のそれぞれのポイント		
	3 ワーク（個人）	35	●
	ワーク（グループ）	(うち10分休憩)	
	4 全体発表	20	●
	5 講師からのフィードバック	10	●
	自社がさらに成功するためのピボットを考える		
	6 ワーク（個人）	40	●
	ワーク（グループ）	(うち10分休憩)	
	7 全体発表	20	●
	8 講師からのフィードバック	5	●

ビジネスモデル変革ワークショップ

ワーク

項目	成功した事例のポイント	失敗した事例のポイント
ビジネスモデル改革が必要な背景		
当時の市場でのポジション		
ビジネスモデル改革の方向性		
新たに対応する顧客のニーズ		
顧客のニーズに対応する新たなビジネスモデル		
必要なリソースの確保（ヒトモノカネノウハウ）		

①
学んだ事例の
成功・失敗ポイントを
抽象化して理解を深める

	Who（誰）	What（何）	How（どのように）
顧客価値	① 顧客は誰か？ その人は何に困っているのか？	② その困りごとの解決策として 何の価値を提供するのか？	③ その価値提供をどのように実現するのか？ 現状の代替策との違いをどのように表現するのか？
利益	④ 誰からお金をいただくのか？	⑤ ② 自社における ピボットアイデア をアウトプット	⑥ どのような時間軸で利益を生み出すのか？
プロセス	⑨ 自社の弱みは何か？ 他社の協力を得る部分はどこか？	⑧ 自社の強みは何か？ 自社でやる部分はどこか？	⑦ どのようなステップで進めるのか？

UX企画ワークショップ



受講対象者

- ✓ 競合との差別化に向けて、ユーザー体験の基礎を学びたい方
- ✓ ユーザー体験の向上を目指すシステムを担当している方



参加者例
(過去実績)

リーダー

中堅



所要時間

3時間 x 2日



価格

※想定職位: 中堅・リーダー

最少価格(税抜) **120万円**

最少催行人数: 20名

参加人数の追加 **6万円/1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



事前課題

1日目に事後課題あり
(内容: 学習したワークを業務で実施し、成果物を作成)

研修の流れ

ユーザー中心の
ポイントを学ぶ



UXを踏まえた
システム/IT化の推進方法を学ぶ



自身の業務における
UXを企画作成

▶ 本研修の活用事例: [活用事例06](#)

UX企画ワークショップ

詳細

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1 なぜユーザー中心の考え方が必要か ユーザー中心の考え方・UXとは何か [ユーザー中心の考え方・UXを踏まえたシステム化やIT化を推進する方法]	25	●
	2 ユーザーモデル(ペルソナ)を作成する	20	●
	3 UXを企画する対象と目的を設定する	20 (うち5分休憩)	●
	4 ジャーニーマップを作成する	40	●
	5 業務シーンを具体的ににする	25 (うち5分休憩)	●
	6 ユーザーが困っていることの仮説構築	20	●
	7 ユーザーインタビューをする	20	●
	8 まとめ・質疑応答・クロージング	10	●
2回目	1 プロトタイプとは	10	●
	2 プロトタイプを作成し仮説を検証する	10	●
	3 プロトタイプ作成の流れと留意する点	15	●
	4 プロトタイプの種類 プロトタイプの評価	40 (うち5分休憩)	●
	5 作成者による評価 想定ユーザーによる評価	40	●
	6 要望/要求/要件を意識してヒアリングする 発表(数グループからを想定) UXを企画する対象と目的	15	●
	7 ユーザーモデル(ペルソナ), 業務シーン ジャーニーマップ, ユーザーが困っていることの仮説 プロトタイプ 今後活かしたい業務内容	30 (うち5分休憩)	●
	8 講師からの講評	10	●
	9 まとめ・質疑応答・クロージング	10	●

UX企画ワークショップ

ワーク

年齢 / 性別	28 / 女性
職業	IT 会社の企画職
居住地	北千住の賃貸マンション
家族構成	夫との2人暮らし
ライフスタイル	平日は19時に退勤し夕食を作ってドラマを見ながら旦那と一緒に食べる。土曜はヨガに通い、日曜は友人や旦那とお出かけをすることが多い。
趣味	ヨガ / 韓国ドラマ

ユーザーモデル
(ペルソナ)シート

UXを企画する対象と目的を設定する 記入例

UX企画の対象 顧客管理システムにおける顧客情報の検索・登録・更新・削除業務	UX企画の目的 ① 画面操作時間の短縮による生産性向上 ② 新規利用者に対する教育コストの圧縮
対象システムにおける業務目的 ・ 顧客情報の適切な管理 ・ 顧客への活動履歴の正確な記録と共有 ・ 社内での営業活動の情報共有 ・ 売上向上施策の検討用データの蓄積	対象システムにおける業務フロー ① 初めて顧客から引き合いがあった際に、顧客の情報を新規登録する ② 顧客名などで検索して参照する ③ 顧客の活動履歴を登録する ④ 取引履歴などが過去3年無かった顧客の情報は毎年4月に棚卸して削除する
ユーザーの特徴 ・ 営業部門であるため、顧客情報の参照は頻繁に発生する。新規登録や更新もときどき行う ・ 外回りが多く、パソコンでの操作よりもタブレットの利用機会が多い ・ 顧客と相対する時間を増やし、顧客満足度を高めたい	ユーザーの課題 ・ 顧客情報の新規登録が面倒で後回しにしがち ・ 顧客の訪問履歴をすべて手入力するのはかなり手間 ・ タブレットの画面に収まりきらず、頻繁に拡大縮小が必要
	UXにおける要求事項 ・ 顧客の住所・電話番号などは自動入力される必要がある ・ スマホのGPS履歴情報から訪問顧客の候補が選択できる必要がある ・ タブレットでも主要な情報は1画面で収まる必要がある

UXを企画する対象・
目的設定シート

ジャーニーマップの作成 (toC化粧品事業の例)

	利用前	利用中	利用後
タッチポイント	スマートフォン (SNS/You Tuber/アットコスメ)	店舗/スマートフォン (店舗のwebサイト)	スマートフォン (アットコスメ/メルカリ)
行動	・ YouTubeで化粧品系youtuberの動画を見漁る ・ パーソナルカラー診断に行く ・ アットコスメから気になる化粧品のボスチカス	・ 気になっていたファンデーションを店舗にて試す ・ 口コミも念の為チェックし購入を決定 ・ ポイントを貯めるために会員カードを作成する	・ 迷った方がわからなくなりYou Tubeで検索 ・ アットコスメに口コミを書き込む ・ 無くなりそうになり、同じものを買おうとネットで売っているサイトを探し、メルカリにて購入
思考	・ 化粧品を実際に試したいけど運動後にデパートに行くのもめんどくさい ・ 自分のパーソナルカラーに合う化粧品が知りたい ・ 口コミだけで化粧品を買うのは少し不安	・ 実際に試せて嬉しい！ ・ BAさんの営業が少しめんどくさい ・ 口コミをチェックしているのをBAさんにみられるのは少し気まずい ・ 会員カードが増えるのは嫌	・ BAさんが詳しく教えてくれたのに忘れてしまったなあ ・ ポイントカード作ったけどメルカリで買ったから使わなかったなあ、
課題	・ 化粧品の情報はたくさん手に入るものの実際の使用感がわからないため購入に至るまでハードルがある	・ 店舗での情報とオンラインの情報が断絶されている ・ ポイントのプラットフォームがたくさんあり登録がめんどくさい	・ BAさんに教えてもらったことをすぐに忘れてしまう ・ さまざまなプラットフォームにポイントや購入履歴が散らばってしまう
要求事項	・ 自分の肌質や顔型にあった化粧品がレコメンドされ、購入前に試すことができる必要がある	・ 店舗、オンラインの両方の購入履歴・ポイントが一元的に管理できる必要がある	・ 購入した商品の使い方を簡単に確認できる必要がある ・ 購入履歴やポイントが一元的に管理できる必要がある

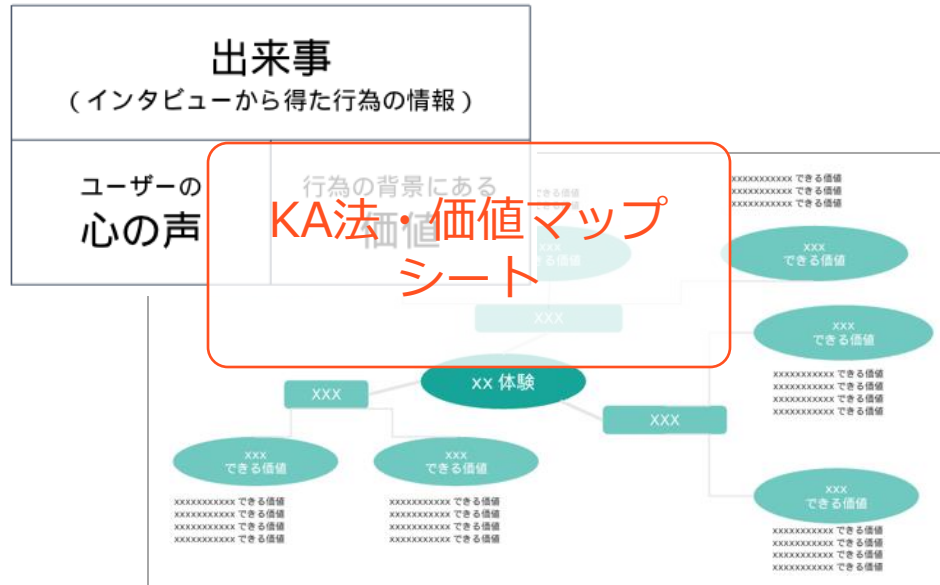
ジャーニーマップ

ユーザー
インタビューシート

質問ID	得たい成果	種類	優先度	配分(分)	質問の前提共有	メインの質問	掘り下げのための質問
オープニング		0	必須	2	本日はお時間をいただきましてありがとうございます。前回の○○と申します。よろしくお願ひいたします。		
1	対象者のバックグラウンドを確認する	1	高	5	最初の質問です。	どんな仕事をしていますか？ 社内での部署や役割を教えてください。	・ 入社されてから何年経ちますか？ ・ 今の役割になった経緯やきっかけはなんですか？ ・ チームの規模はどのくらいですか？ ・ 具体的に担当している業務の目標はありますか？ ・ 扱う情報にはどんな種類のものがありますか？
2	業務プロセスを確認する	2	必須	10	では、そうした役割の中で○○の業務のフローを教えてください。	業務上のどんな○○をしますか？	・ 業務フローはどのくらいですか？ ・ ひとりで完結しますか？ ・ 他の方との連携はどのくらい必要ですか？
5	すでに起つていたトラブルを確認する	3	必須	10	○○をしながら、何らかのトラブルを経験したことがありましたか？		・ トラブルが起きた原因はなんですか？ ・ どのくらいの頻度で起きましたか？ ・ トラブルによる影響はどのくらいありましたか？
7	トラブルに対する疑問を確認する	4	中	5	発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？		・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？
4	トラブルについて、関係者や利害関係者などとのやり取りの有無を確認する	5	中	10	トラブルの前後、周りからはどんなサポートがありましたか？		・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？
6	本音があらわれないように促す	6	高	6	質問: 本題の部分ではおとんどご自由に感じましたか？		・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？
3	その人ならではの気持ちを引き出す	7	必須	6	最後にひとりで自由に話せる時間とします。自分の仕事の話を聞かせていただけますか？		・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？ ・ 発生したトラブルに対して、どんな疑問をもちましたか？
クローージング		99	必須	3	それではお時間をいただきましてありがとうございます。貴重なお話をありがとうございました。○○のほうから何時間経ちましたか？ 今日お話しした内容は、○○に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。		

UX企画ワークショップ

ワーク



プロトタイプ作成 コンセプトボード



コンセプトテスト 評価シート

コンセプトボード シーンNo: 1

Q1: 利用シナリオに対して、どの程度共感しますか？
(当てはまるところに○を付けてください)

5 4 3 2 1

内緒である まあまあ内緒である 多少内緒である かなり内緒である 全く内緒でない

Q2: このアイデアに対して、どの程度魅力を感じましたか？

5 4 3 2 1

魅力を感じる まあまあ魅力を感じる 多少魅力を感じる かなり魅力を感じる 全く魅力を感じない

Q3: このアイデアやこの製品を自新しいと感じますか？

5 4 3 2 1

目新しいと感じる まあまあ目新しいと感じる 多少目新しいと感じる かなり目新しいと感じる 全く目新しいと感じない

Q4: 利用シナリオにあるような製品利用をしてみたいですか？

5 4 3 2 1

利用したい まあまあ利用したい 多少利用したい かなり利用したい 全く利用したくない

Q5: このアイデアの説明はわかりやすいですか？

5 4 3 2 1

説明が詳しい まあまあ説明が詳しい 多少説明が詳しい かなり説明が詳しい 全く説明がない

コンセプトテスト 順位付けシート

評価していただいたこれらのアイデアを
どのくらい使ってみたいですか？
順位をつけてください

10 5 0

とても使ってみたい どちらかといえばいい 使ってたくない

1位

2位

3位

[illegible]

DX事業立案ワークショップ

概要



受講対象者

- ✓ DXの基礎・DX事業の立案のポイントを学びたい方
- ✓ デジタルを活かした新規事業の立案を担当している方



参加者例 (過去実績)

リーダー

部長



所要時間

2.5時間 x 4日



価格

※想定職位: 中堅・リーダー

最少価格(税抜) **300万円**

最少催行人数: 30名

参加人数の追加 **10万円/1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

- 1日目事前課題: [Aidemy Business] 動画1コース受講(3.5時間)
- 2・4日目事前課題: ワークのブラッシュアップ
- 3日目事前課題: ワークシートの記入

研修の流れ

DXの基礎を学ぶ
DX事業のアイデア出し



DX事業立案に
必要な要素を学ぶ



ワークシートに
アイデアをまとめる

▶本研修の活用事例:

[活用事例01](#)[活用事例03](#)[活用事例05](#)

DX事業立案ワークショップ

詳細

●: 講義/インプット ●: アウトプット ●: ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	1	DX（デジタル変革）とは何か	10	●
	2	DXの定義	5	●
		DXの本質		
		データ・デジタル化の全体像		
		AI・クラウド・IoTは何をどう変えているのか		
	3	2045年のシンギュラリティ	10	●
		ドイツのインダストリー4.0が見据える将来		
		DXという言葉を使わずにDXを語る必要性		
		[DX事業立案に向けた解説とブレインストーミング]		
	4	DXキャンパスの紹介	10	●
	5	ペルソナ・カスタマージャーニー	40 (うち10分休憩)	●
	6	DX事例の7つの要素	20	●
	7	DX事業立案に向けた・深掘り	20	●
	8	7つの要素フレームワーク	30	●
	9	まとめ	5	●
2回目		[DX事業立案に向けたブレインストーミング・深掘り]		
	1	既存事業とのシナジー	30	●
	2	データ活用	25	●
	3	パートナー	25	●
	4	収益計算	65 (うち10分休憩)	●
	5	まとめ	5	●

	#	内容	時間(m)	タイプ
3回目		[DX事業立案に向けたブレインストーミング・深掘り]		
	1	Minimum Viable Product (MVP)	30	●
	2	DXキャンパスの記入	15	●
		DXキャンパスのペアレビュー		
	3	新規事業のセオリー	30	●
		プロダクトロードマップ		
	4	アジャイルな思想・考え方	70 (うち10分休憩)	●
		検証ポイントの言語化		
	5	まとめ	5	●
4回目	1	DXキャンパスのペアレビュー	15	●
		デザイン思考とは		
		フェーズ① 着想		
	2	フェーズ② 発案	10	●
		フェーズ③ 実現		
	3	デザイン思考の事例	5	●
		PoC企画書を作ってみよう		
	4	ランディングページ型MVPを作るなら	100 (うち10分休憩)	●
		オズの魔法使い型MVPを作るなら		
		ローコードツール Power Apps		
	5	概要	10	●
		事例		
	6	大企業で新規DX事業を進めるためのポイント	5	●
	7	まとめ	5	●

DX事業立案ワークショップ

ワーク

DXキャンバス

Product		Market		
解決したい問題	ソリューション	独自の価値提案	優位性	顧客セグメント
	主要指標	① 事業アイデアを 要素ごとに整理		チャネル
コスト構造		収益の流れ		
下部の部分はワークショップ内では扱いません。 参考情報：1日目の事前課題のeラーニングコース 「事例で学ぶ！DX事業立案」				
Method				

サマリ

- 私（私たちのチーム）は、

DXキャンバスの「顧客セグメント」を1-2行で記載する

が抱えている、

DXキャンバスの「解決したい問題」を1-2行で記載する

という問題を、

- DXキャンバスの「独自の価値提案」を1-2行で記載する

という独自の価値を提供する

- DXキャンバスの「ソリューション」を1-2行で記載する

を開発し、事業化することを企画しています。

②
企画を誰にでも
わかる簡潔な内容に整理

AI開発ハンズオン研修

概要



受講対象者

- ✓ プログラミング言語(Python)での機械学習モデル開発を体験したい方
- ✓ 外注・内製をする前に、DX・AIの基礎知識を身に付けたい方

参加者例
(過去実績)

新入社員

若手



所要時間

8時間 x 3日



価格

※想定職位: 新人・若手

最少価格(税抜) 240万円

最少催行人数: 20名

参加人数の追加 12万円/1名

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

事前課題 | [Aidemy Business] 動画受講

1日目: 7コース (10時間)

2日目: 7コース (12時間)

3日目: 9コース (25.5時間)

コースを必須及び任意に分けて、受講者の負担を軽減することも可能

Pythonで機械学習・深層学習のモデルを開発するため

下記いずれかの開発環境を準備

・ GoogleColaboratory

・ jupyter notebook

研修の流れ

DXの基礎を学ぶ

機械学習・深層学習の
基礎を学ぶ画像認識モデルの
ハンズオン▶ 本研修の活用事例: [活用事例04](#)

AI開発ハンズオン研修

詳細

●：講義/インプット ●：アウトプット ●：ディスカッション・発表など

#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	< 午前の部 AM9-12 >		
	1 アイスブレイク	15	●
	2 事前学習内容の振り返り	25	●
	3 個人ワーク/グループディスカッション 「DXとは何か？どうすればDXを進めることができるのか？」	90 (うち20分休憩)	●
	4 グループディスカッション内容を全体共有	40	●
	5 講師の講評	10	●
	< 午後の部 PM 13-17 >		
	1 ビジネスにおけるデータサイエンス・機械学習の意義 実際にクラウドサービスに触れてみる グループディスカッション	90 (うち10分休憩)	●
	2 「ビジネスにおけるデータサイエンス・機械学習の意義」「なぜクラウドがよく使われるのか？メリットは何か？デメリットは何か？」	100 (うち20分休憩)	●
	3 グループディスカッション内容を全体共有	40	●
	4 講師の講評	10	●
2回目	< 午前の部 AM9-12 >		
	1 アイスブレイク	15	●
	2 事前学習内容の振り返り	25	●
	3 個人ワーク/グループディスカッション 「機械学習・深層学習でできること/できないことは何か？始めるには何が必要か？」	80 (うち10分休憩)	●
	4 グループディスカッション内容を全体共有	50 (うち10分休憩)	●
	5 講師の講評	10	●
	< 午後の部 PM 13-17 >		
	個人ワーク/グループワーク		
	1 「ケーススタディ：DXを推進するリーダーとして、何の課題をデータとデジタル化で解決するか？」「自社でAIを活用できる業務は何か？」	90 (うち10分休憩)	●
	2 個人ワーク内容をグループディスカッション	90 (うち10分休憩)	●
	3 グループディスカッション内容を全体共有	50 (うち10分休憩)	●
	4 講師の講評	10	●

#	内容	時間(m)	タイプ
3回目	< 午前の部 AM9-12 >		
	1 アイスブレイク	15	●
	2 事前学習内容の振り返り	25	●
	3 ハンズオン 画像認識モデル作成(機械学習)	40 (うち10分休憩)	●
	4 グループディスカッション 「機械学習モデルの結果について」	50 (うち10分休憩)	●
	5 グループディスカッション内容を全体共有	40	●
	6 講師の講評	10	●
	< 午後の部 PM 13-17 >		
	ハンズオン		
	1 画像認識モデル作成の続き(深層学習)	90 (うち10分休憩)	●
	2 グループディスカッション 「深層学習モデルの結果について」	90 (うち20分休憩)	●
	3 グループディスカッション内容を全体共有	50	●
	4 講師の講評	10	●

Python実践研修

概要



受講対象者

- ✓ Pythonの初中級レベルからレベルアップを目指す方
- ✓ 機械学習モデル開発を体験して、Pythonの経験値を上げたい方

※必要知識：高校数学の数II・数B



参加者例
(過去実績)

若手

リーダー



所要時間

6時間 x 4日



価格

※想定職位：中堅・リーダー

最少価格(税抜) **180万円**

最少催行人数：10名

参加人数の追加 **18万円/1名**
(最大15名)

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

事前課題 | [Aidemy Business受講]

1日目：4コース(13時間)

2日目：2コース(6.5時間)

3日目：4コース(9時間)

4日目：2コース(4時間)

事後課題(1~3日目)

確認問題・コーディング課題

(目安時間：最大5時間)

事後課題(研修後)

[Eラーニング受講] 7コース(33時間)

開発環境として

GoogleColaboratoryの
ノートブック

が使えるPCを準備

研修の流れ

Pythonと
ライブラリ「Numpy」の
基礎を学ぶ



ライブラリ
「Pandas」「Matplotlib」の
基礎を学ぶ



機械学習モデルを開発
(回帰・分類)

Python実践研修

詳細

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

	#	内容	時間(m)	タイプ
1回目	< 午前の部 AM9-12 >			
	1	はじめに	10	●
	2	データ・開発環境の準備 [Pythonの基礎]	20	●
	3	コメントアウト・print	20	●
	4	変数操作	20	●
	5	データ型	20	●
	6	条件分岐・比較演算子	30 (うち10分休憩)	●
	7	リスト・辞書	30	●
	8	while・for	30	●
	< 午後の部 PM 13:30-16:30 >			
	1	関数	30	●
	2	クラス	40 (うち10分休憩)	●
		[NumPyの基礎]		
	3	ndarray型・array関数	20	●
2回目	4	配列同士の四則演算	20	●
	5	インデックス・shape属性	20	●
	6	loadtxt関数・csvファイル読み込み	20	●
	7	NumPy配列と数値の四則演算・スライス	30	●
	< 午前の部 AM9-12 >			
	1	OpenCV講義 ハンズオン実習	30	●
	2	画像ファイルの読み込み 画像ファイルの操作	150 (うち20分休憩)	●
	< 午後の部 PM 13:30-16:30 >			
		[Pandasの基礎]		
	1	Series生成・抽出	20	●
	2	Series操作 要素追加・削除・ソート・フィルタリング	70 (うち10分休憩)	●
	3	DataFrame生成・抽出	20	●
	4	DataFrame操作 要素追加・削除・ソート・フィルタリング	70 (うち10分休憩)	●

	#	内容	時間(m)	タイプ
3回目	< 午前の部 AM9-12 >			
		[Matplotlibの基礎]		
	1	棒グラフ	40	●
	2	折れ線グラフ	50 (うち10分休憩)	●
	3	ヒストグラム	40	●
	4	散布図	50 (うち10分休憩)	●
	< 午後の部 PM 13:30-16:30 >			
		[データベース概念・データ加工]		
	1	データとは、データベースとは	30	●
	2	ハンズオン実習 pyodbcでSQLサーバーに接続	30 (うち10分休憩)	●
4回目	3	SQL基礎	30	●
	4	ハンズオン実習 SQLによるデータ取得・操作	45 (うち10分休憩)	●
	5	EDAのハンズオン実習 住宅価格予測の概要	45	●
	< 午前の部 AM9-12 >			
	1	EDAの発表	90 (うち10分休憩)	●
	2	データの前処理	30	●
	3	ハンズオン実習 クレンジング・特徴量エンジニアリング	60 (うち10分休憩)	●
	< 午後の部 PM 13:30-16:30 >			
		ハンズオン実習		
	1	モデルの学習と検証 モデルの選択	180 (うち20分休憩)	●

1on1コンサルティング

概要



- ✓ 実務で発生した課題・サポートが必要な点について、有識者からのサポートを受けたい方



現場リーダー

管理職



1時間/回

期間：実施回数と頻度は応相談



最少価格(税抜) 10万円～

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要

高度な専門知識やスキルが必要なケースでは、追加費用が発生する場合もございます



- ・ ユーザー中心の考え方やUX企画の具体的な方法
- ・ 具体的な方法を実践する際に留意すべき点
- ・ 実践した結果を分析/解釈する際の観点/方法 など

※即時回答が難しい内容は、ベストエフォートにてご回答

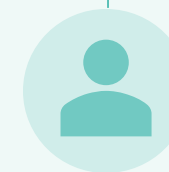
例：お客様の業界知識(市場/競合)や、特定の業務領域に関する知識・スキル

サポート構図

アイデミーの
プロフェッショナル

代表者1名との1on1

貴社のチーム



カスタマイズ研修事例



DXアナリスト実践研修

概要



受講対象者

- ✓ プログラミング言語(Python)での機械学習モデル開発を体験したい方
- ✓ 外注・内製をする前に、DX・AIの基礎知識を身に付けたい方



参加者例 (過去実績)

各部署のリーダー・中堅社員

直接・間接部門問わず
全社横断的に27部署から30名



所要時間

3時間 x 14日

課題あり

- ・Eラーニング 動画視聴(15.5時間)
- ・アイデア企画、プロトタイプ作成



研修成果

75つの課題が顕在化

課題解決のために必要な知識、
左記のツール基本操作スキルを取得

Power BI (データ分析)
Power Apps (アプリ開発)
Power Automate (RPA・DPA)

課題解決に向けて
27つのDXアイデアが誕生
(ツールを用いたプロトタイプ開発を含む)

DXアイデアの例

- ・ 営業ダッシュボード作成
- ・ 物件の損益パフォーマンスの可視化
- ・ 各種人事データにおける相関関係の可視化

研修の流れ

自部署の課題に対して
具体的な目的・GOALを
定められる知識を学ぶ



課題解決に必要なアプローチ手法や
ツールのスキルを学ぶ
(Power BI, Power Apps, Power Automate)



実践に向けた
企画書の作成が出来る知識を学ぶ



DXアイデア
最終発表会

DXアナリスト実践研修

詳細

●：講義/インプット ●：アウトプット ●：ディスカッション・発表など

#	内容	タイプ
< 課題整理グループワーク >		
1回目	[研修の事前説明会]	
	1 研修の目的	●
	2 研修概要	●
	3 事前課題/図書について	●
	4 課題実施に向けたDX参考事例	●
2回目	[DX実践研修ワークショップ]	
	1 研修の説明	●
	2 自己紹介・アイスブレイク	●
	3 グループワーク・全体共有・講評	●
	「各部署の課題の分類」	●
< ローコード開発研修 >		
3回目	[プログラミング無しでアプリを作る時代]	
	1 ノーコード・ローコードツールの概要	●
	2 新規事業や業務システム事例	●
	3 活用ツールマップ・強みと弱み	●
	4 活用にあたってのポイント	●
4回目	[データの可視化]	
	1 業務プロセスの復習	●
	2 データを可視化する目的	●
	3 そもそもBIとは何か	●
	4 BIで扱うデータとは何か	●
	5 Power BI の紹介	●
< データ分析研修 >		
5回目	[Power BI ハンズオン研修①]	
	1 データソースとの接続	●
	2 データ取得(Extract)	●
	3 変換・整形(Transform)	●
	4 モデルへの読み込み(Load)	●

#	内容	タイプ
6回目	[Power BI ハンズオン研修②]	
	1 モデリングの各種設定	●
	2 リレーション	●
	3 計算列	●
	4 メジャー	●
7回目	[Power BI ハンズオン研修③]	
	1 ビジュアライズの設定	●
	2 テーブル(表)	●
	3 マトリックス(クロス集計表)	●
	4 折れ線グラフ	●
	5 棒グラフ	●
8回目	[Power BI & アジャイル研修]	
	1 サンプルデータのハンズオン	●
	2 ファイルのパス	●
	3 ER図	●
	4 正規化	●
	5 アジャイルな思想・考え方	●
< アプリ開発研修 >		
9回目	[Power Apps ハンズオン研修①]	
	1 Power Apps の概要	●
	2 データベース (SharePoint) について	●
	3 データソースからアプリを作ってみよう	●
	4 自動生成アプリを探検してみよう	●
10回目	[Power Apps ハンズオン研修②]	
	1 自動生成アプリを改造してみよう	●
	2 1からアプリを作ってみよう	●

#	内容	タイプ
11回目	[Power Apps ハンズオン研修③]	
	1 本格的なアプリ開発	●
	2 データソースの作成、接続	●
	3 見た目を整える	●
	4 機能の開発	●
12回目	[Power Apps ハンズオン研修④]	
	1 本格的なアプリ開発	●
	2 機能の開発	●
	3 アプリケーションの共有	●
	4 アプリケーションの運用	●
< DXアイデア創出ワークショップ >		
13回目	[DXアイデア創出ワークショップ①]	
	1 Power Automate紹介	●
	2 Power AutomateとPower Platform の組み合わせ方	●
	3 個人ワーク：DXアイデア企画書及びプロトタイプの説明	●
	4 グループワーク：DXアイデア企画書及びプロトタイプの説明	●
	5 発表サポート	●
14回目	[DXアイデア創出ワークショップ②]	
	1 グループワーク：プロトタイプ(試作品)について	●
	2 個人ワーク：プロトタイプ(試作品)について	●
	3 発表サポート	●

ビジュアルプログラミングで学ぶ、 挫折しないプログラミング研修

概要



受講対象者

- ✓ プログラミングをせずに、プログラミングを理解したい方
- ✓ ノーコード・ローコードツールの操作感を理解したい方



参加者例 (過去実績)

リーダー

部長



所要時間

7時間 x 1日



価格

※想定職位：中堅・リーダー

最少価格(税抜) **100万円**

最少催行人数：20名

参加人数の追加 **5万円/1名**

実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要



課題

特になし

研修の流れ

使用する
ブロックリー教材について学ぶ



ノーコード・ローコードで
表計算を行う



ブロックリー教材で
100本ノックを行う

ビジュアルプログラミングで学ぶ、 挫折しないプログラミング研修

[詳細](#)

● : 講義/インプット ● : アウトプット ● : ディスカッション・発表など

# 内容		タイプ
1回目 (4時間)	1 ブロックリー教材に関する説明	●
	2 ノーコード・ローコードで表計算を行う	●
	ブロックリー教材の100本ノック	
	ブロックの設置	
	値の読み込みと書き込み	
	ループとループ変数の利用	
	ループ変数の書き込み	
	変数の利用	
	3 ループと計算	●
	二重ループ	
	条件分岐	
	かつ、または	
	並べ替え	
	フィボナッチ数列	

ビジュアルプログラミングで学ぶ、 挫折しないプログラミング研修

ワーク

ブロックリー教材のイメージ

問題

ブロックの結果が
出力されるブロックを組み合わせ
ロジックを表現する左側の出力部分での
問題に対する回答の
出力を目指す！

The screenshot displays the Aidemy visual programming environment. At the top, a navigation bar includes 'SAMPLE LOGO', 'コース選択', 'Lv.1 チュートリアル', 'Lv.2 応用問題', 'Lv.3 追加問題', '配列の逆転', and 'フリースペース'. Below this, a progress bar indicates the current step: 'Lv.1 チュートリアル' with sub-steps '1 ブロックの設置', '2 値の読み込みと書き込み', and '3 ループとループ関数の利用'. The main workspace is divided into three sections: a problem statement, a table output, and a code preview.

問題 (Problem): A1に100を書き込んでください。 (Please write 100 in A1.)

結果 (Result): A table with columns A through J and rows 1 through 19. The value 42 is displayed in cell A1.

コードプレビュー (Code Preview): A JavaScript function `initHighlight(block, cls)` is shown, which uses `try/catch` and `process` to highlight text in a table.

ブロック (Blocks): Two '表に値を書込む' (Write value to table) blocks are visible. The first block is configured with '列' (Column) set to 'A' and '行' (Row) set to '1', with a value of '42'. The second block is also configured with '列' set to 'A' and '行' set to '1', with a value of '42'.

DX推進のための戦略立案プログラム

概要

「Next Executive Program」を企業内研修としてカスタマイズしたプログラム

「Next Executive Program」とは、東京大学エクステンション株式会社 × 一般社団法人経団連事業サービス × 株式会社アイデミーで開催された、DX・AI・IoTなどの先端テクノロジーの知識、実践を重視したデジタル事業戦略と組織戦略を描くスキル習得を目的にした半年間の次世代経営幹部向けの研修。



- ✓ DX推進のための戦略を立案を担当する方
- ✓ デジタル変革にむけて、技術だけでなく、人材・組織の変革についても担当する方



参加者例
(過去実績)

次世代の経営幹部・リーダー



所要時間

7時間 × 1日



価格

※想定職位：次世代リーダー
最少価格(税抜) 1,200万円
最少催行人数：20名

参加人数の追加 60万円/1名
実地開催やカスタマイズは別途費用が必要
上位職位の方が受講される場合、追加費用が必要

※期間：3ヶ月のLite版もあります

研修プログラムの流れ

- | | |
|------|----------|
| 1ヶ月目 | DXを描く |
| 2ヶ月目 | AIを活かす |
| 3ヶ月目 | IoTを活かす |
| 4ヶ月目 | HR戦略に活かす |
| 5ヶ月目 | 事業戦略に活かす |
| 6ヶ月目 | 最終課題 |

活用事例の紹介

下線部クリックで紹介スライドへ遷移

- [01. 機械メーカー | DX事業立案WS \(一部カスタマイズ\)](#)
- [02. 機械メーカー | 新卒社員向けプログラム \(一部カスタマイズ\)](#)
- [03. 食品商社 | 新卒社員向けプログラム \(一部カスタマイズ\)](#)
- [04. 輸送機器メーカー | AI開発ハンズオン研修 \(一部カスタマイズ\)](#)
- [05. 輸送機器メーカー | DX事業立案WS, デジタルモデル変革WS, オーダーメイドのWS・支援](#)
- [06. 銀行金融系 | UX企画WS・1on1コンサルティング](#)

機械メーカー | DX事業立案WS (一部カスタマイズ)

GOAL



会社として、デジタル変革をしたい点

- ・ビジネスモデル(価値の提供手段)
- ・プロセス(仕事のやり方)

PLAN



「1年間でデジタル人材50名創出」育成プロジェクトで
DX事業立案WSを活用

STEP1

デジタル技術・データの活用、
価値創造にむけて
基礎知識を習得

Aidemy Business

(38時間分)

(内容 : DXリテラシー, データ分析基礎,
プロジェクト企画実行基礎)

STEP2

デジタル変革にむけて
DX事業の企画立案スキルを取得

[カスタマイズ有]

DX事業立案WS

(Power Appsハンズオン追加)



選抜 : 50名

Aidemy PRACTICE

STEP3

プロジェクト化を目指して
アイデアを他者に発表

アイデアコンテスト実施

(最優秀案はプロジェクト化を検討)

Aidemy PRACTICE

受講者 のお声

ゼロから体系的に学び、
アウトプット(DXキャンバ
ス・PoC企画書)まで
出来たため理解が深まった。

DX事業を立案する上で、
必要なエッセンスを学べた。

ビジネス立案だけでなく、
Power Appsの使い方まで学べた
ため、DX関連ビジネスの進め方
をよく理解できた。

他の参加者と意見交換したり、
PowerAppsを操作しながら学べた
ことでイメージがつかみやすく、
身につけやすかったと感じた。

機械メーカー | 新卒社員向けプログラム (一部カスタマイズ)

GOAL



デジタルネイティブな
人材に育成する

PLAN



「デジタル技術・システム開発手法」の基礎を
学ぶ研修として、新卒社員向けプログラムを活用

STEP1

自分の言葉で
「DX」を語れるようになる

Aidemy Business

10時間分, DXリテラシー

グループディスカッション

- 「DXとは何か？どうすればDXを進めることができるのか？」
- 「なぜクラウドがよく使われるのか？メリットは何か？デメリットは何か？」



STEP2

「機械学習・深層学習の能否」
を語れるようになる

Aidemy Business

12時間分, AIリテラシー

グループディスカッション

「機械学習・深層学習でできることできないことは何か？始めるには何が必要か？」

個人ワーク: ケーススタディ

「DXを推進するリーダーとして、
何の課題をデータとデジタル化で解決するか？」



STEP3

下記を体験

- 機械学習モデル開発(Python)
- データ可視化(Power BI)

Aidemy Business

21.5時間分, Python基礎・データ活用

機械学習モデル開発ハンズオン

「乳がん診断データセットで機械学習モデルを開発」

個人ワーク: ケーススタディ

「東京都の新型コロナ感染者発生状況を可視化」

受講者
のお声

説明がわかりやすく丁寧で、
AIやデジタル技術について
理解が大変深まった。

DX・AIがなぜ必要なのかを
事前学習や対面研修を通して学べた。
自分のDXに対する意識が変わった。

DXの概念や、日本のDXの現状を
体系的に学べた。難しかったが、
DXに興味を持つことができた。

グループワークでの
意見交換や個人ワークを
通して理解が深まりました。

食品商社 | 新卒社員向けプログラム (一部カスタマイズ)

GOAL



DX推進に向けた人材育成
課題を発見して、それらを解決する「デジタル技術
を活用した企画力&プレゼン力」を習得

PLAN



【営業・情報システム部向け】
DX事業立案WS・デジタル業務改善WSを活用

STEP1

DX・デジタル技術の
基礎がわかる

Aidemy Business
(40時間分)

(内容：DX/AIリテラシー、データ分析基礎、
AIプロジェクトマネジメントなど)

公募募集：40名

STEP2

デジタル技術を活用した
企画を立案できる

DX事業立案WS
デジタル業務改善WS

選抜：20名
Aidemy PRACTICE

STEP3

立案した企画を
他者にプレゼンできる

成果発表会
WS内で企画をした
アイデアをプレゼンする

WS参加者：20名

STEP4

立案した企画から
プロジェクトを立ち上げる

プロジェクト化の実現
発表されたアイデアが
半年後にプロジェクト化

DX事業立案WS

事業立案に関するプロセスが
理解できた。DXに詳しい講師
からアドバイス・意見を
もらったことに価値を感じた

オンラインでの勉強後にWSで
内容を深掘りしたことで知識を
定着させることができた。
また、それらの知識を実際に活用
する具体的なイメージが持てた。

デジタル業務改善WS

業務改善プランを考案するポイン
トを学ぶことが出来た。
このポイントは、会社メンバー
全員が抑えておく点だと感じた。

専門的な指導を受けることが
できた。自分自身の固定観念
的な視点に気づき、異なる観
点で物事を見ることを学習で
きて、心から納得した。

輸送機器メーカー | AI開発ハンズオン研修 (一部カスタマイズ)

GOAL



他部門から異動した
メンバーの育成

PLAN



ソフトウェアエンジニアへの職種転換をするメンバーに
対する研修として、**AI開発ハンズオン研修**を活用

STEP1

デジタル変革への
マインドセットを学ぶ

Aidemy Business
(9時間分)

(内容：DXリテラシー、
デジタル技術・開発手法)

STEP2

AI・Python・データ
分析の基礎を学ぶ

Aidemy Business
(53時間分)

(内容：AI基礎, Python基礎)

機械学習・深層学習の
能否を学ぶ

[カスタマイズ有]
AI開発ハンズオン研修

(3日間のプログラムを2日間に短縮、
機械学習モデル開発のハンズオンは除外)

 **Aidemy PRACTICE**

STEP3

データ分析応用を学ぶ、
画像認識AIモデルに挑戦

Aidemy Business
(43.5時間分)

(内容：データ分析応用、
機械学習基礎、画像認識応用)

ハンズオン研修活用のポイント

Eラーニングでの応用学習前に、ハンズオン研修で下記を実施。

- ハンズオン研修で、DX・AI基礎を再度学ぶ
(**基礎知識の定着を目指す！**)
- 講師がいる中で、機械学習モデル開発を実際に体験する
(**応用を学ぶ前に、一段階設けることで円滑な学習を支援！**)

レベルのイメージ

レベルがグッと
上がるポイント

輸送機器メーカー | DX事業立案WS, デジタルモデル変革WS, オーダーメイドのWS・支援

GOAL



デジタル改革を目指す
組織の基盤を構築する

PLAN



組織の共通言語を育み、新サービスの安定運用までを
行える人材育成のため、**DX事業立案WS,**
デジタルモデル変革WS, オーダーメイドWS・支援を活用

STEP1

DXに関する
共通言語を育てる

STEP2

アイデア創造、市場の動向、
事業転換の成功/失敗事例を学ぶ

STEP3

新サービスの
立ち上げ・安定稼働を目指す

Aidemy Business

(内容：DXリテラシー,
AI基礎・応用・発展)

DX事業立案WS | 4日間



デジタルモデル変革WS | 1日間



[オーダーメイド]
オープンイノベーションWS | 1日間

[オーダーメイド]
新サービスプロジェクト支援

各プロジェクトフェーズにおいて
MTGへの参加, アドバイス・フィードバック実施

コンセプト/プロトタイプの
企画立案の
支援

プロトタイプ
構築支援

運用プロセスの
企画支援



選抜：100名



選抜：50名

Aidemy PRACTICE



プロジェクトメンバー

Aidemy PRACTICE

銀行金融系 | UX企画WS・1on1コンサルティング

GOAL



組織としての
デジタル変革推進

PLAN



ビジネス部門系を対象に、
企画立案・実施ができる人材の育成にむけて、
UX企画WS・1on1コンサルティングを活用

STEP1

変革に向けた
ビジョンの周知

[オーダーメイド]
Aidemy Business
(オリジナルのコンテンツ作成)

STEP2

企画立案スキルを学ぶ
(社員の自発的な企画立案を後押し)

課題の整理・特定
(WS参加メンバーが
現場ヒアリング・課題特定を実施)

UX企画WS | 2日間
(UXの視点を取り入れた上で
課題に対する企画書を作成)


STEP3

WSで作成した企画案の実行
(短期的な成果の実現を目指す)

1on1コンサルティング
(プロジェクト遂行を支援)


価格リスト

全オンライン開催。※実地開催・内容カスタマイズに関しては、ご要望に応じて別途お見積もり。

#	講演/ワークショップ名	所要時間	最小執行人数	価格(税抜)	参加人数の追加価格(税抜)
1	プロフェッショナル講演	～3時間 x 1日	100名	50万円	5万円/100名
2	[Power Automate] RPA研修	3時間 x 2日	15名	90万円	6万円/1名
3	[Power BI] データ可視化研修	3時間 x 1日	30名	90万円	3万円/1名
4	デジタル業務改善ワークショップ	3時間 x 2日	15名	90万円	4万円/1名
5-1	AI活用企画ワークショップ 入門編	2時間 x 1日	20名	80万円	4万円/1名
5-2	AI活用企画ワークショップ 中上級編	2.5時間 x 4日	30名	300万円	10万円/1名
6	ビジネスモデル変革ワークショップ	3時間 x 1日	30名	90万円	3万円/1名
7	UX企画ワークショップ	3時間 x 2日	20名	120万円	6万円/1名
8	DX事業立案ワークショップ	2.5時間 x 4日	30名	300万円	10万円/1名
9	AI開発ハンズオン研修	8時間 x 3日	20名	240万円	12万円/1名
10	Python実践研修	6時間 x 4日	10名	180万円	18万円/1名
11	1on1コンサルティング	1時間	1名	10万円～	—

講師を務めるプロフェッショナル



株式会社NextInt 代表
中山 心太

— 専門領域

- ・ 機械学習を用いたサービス開発の支援・技術顧問サポート
- ・ 機械学習の事業導入に関する企画コンサルティング
- ・ ゲームディレクター、ゲーム開発の企画支援
- ・ 企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)支援・講演の実施
- ・ 各種ウェブシステム・Windowsアプリケーションの開発・開発支援

— DXに関する講演および社内研修

講演実績：

ソフトバンク株式会社、リコーリース株式会社、株式会社タチエス、NTTコミュニケーションズ株式会社、コマツ、キオクシア株式会社、株式会社桐井製作所、パナソニック株式会社、水ing株式会社 (順不同)



株式会社アイデミー
代表取締役執行役員 社長 CEO
石川 聡彦

— 略歴

東京大学工学部卒。同大学院中退。

在学中、研究・実務でデータ解析に従事した経験を活かし、AIを中心としたDX人材育成サービス「Aidemy」や機械学習モデルの実運用支援サービス「Modeloy」を開発・提供している。

著書に『人工知能プログラミングのための数学がわかる本』

(KADOKAWA/2018年)、『投資対効果を最大化するAI導入7つのルール』(KADOKAWA/2020年) など。

世界を変える30歳未満の30人「Forbes 30 UNDER 30 JAPAN 2019」「Forbes 30 Under 30 Asia 2021」選出。

講師を務めるプロフェッショナル



株式会社アイデミー
法人デジタル人材育成事業部
研修・コンサルティンググループ
登坂 直矢

一 略歴

東京大学で生物統計学を学ぶ。株式会社リクルートマネジメントソリューションズにて研修事業に従事。その間、日本ディープラーニング協会G検定及びE資格を取得し、副業でAI関連のスキルを磨く。2020年6月より株式会社アイデミーに入社、コンテンツ編集長・ソリューション推進を担当し、2021年12月より現職。

一 専門領域

- ・ 日本ディープラーニング協会のG検定及びE資格
- ・ デジタルコンテンツや研修の開発
- ・ デジタルコンテンツと研修を組み合わせた実践型PBLプログラムの開発
- ・ DX、AI、機械学習、データサイエンス、統計、Power Platform
- ・ DX推進のための戦略、業務、組織変革コンサルティング

一 過去に関与した案件の一例

- ・ 某大手損害保険企業のシステム子会社向けDX人材育成計画詳細化に向けたコンサルティング
- ・ 某エンジニア派遣大手企業向けトップマネジメントDXセミナーの講師
- ・ 某製造大手企業向け管理職層DXプランナー育成研修の講師



株式会社アイデミー
法人デジタル人材育成事業部
研修・コンサルティンググループ
田中 武士

一 略歴

大手広告代理店にてエリアマーケティングを担当。
大手チェーンストアの新規出店に伴う商圈分析、広告・集客戦略立案等を主な業務とする。
勤続11年を迎えた年に、エリアマーケティングに特化した新規事業を創業。
大手から中小の幅広い企業に対し、データ分析・活用、IT導入支援を行う。

一 専門領域

- ・ DX・AI・先進技術を活用した業務改善
- ・ ジオデータ、社内データを活用した集客改善
- ・ GIS（地理情報システム）を用いたエリアマーケティング

一 過去に関与した案件の一例

- ・ 中小企業向けIT導入、業務改善支援
- ・ 大手チェーンストア向け集客改善支援
- ・ 商工会、商工会議所職員向け 中小企業支援研修講師

講師を務めるプロフェッショナル



株式会社アイデミー
法人デジタル人材育成事業部
研修・コンサルティンググループ
坂本 圭司

— 略歴

- 千葉大学大学院 知能情報科学科 修了
- SIerにてソフトウェア開発のプロジェクトマネジメント業務に従事
- コンサルティングファームにて先進技術活用やDXをテーマにした業務改善の構想策定、PoC推進、本格導入プロジェクト化を支援

— 専門領域

- DX・AI・先進技術を活用した業務改善
- BIを活用したデータ可視化
- 海外ベンダーを含めたマルチベンダープロジェクトマネジメント

— 過去に関与した案件の一例

- 自然言語処理技術を活用したFAQ検索システム PoC、導入支援
- 音声認識を活用したコンタクトセンター業務効率化 PoC、導入支援
- データ分析基盤 構想立案、PoC、導入支援
- 官公庁/自治体向け文書管理システム開発 プロジェクトリード

— 保有資格

- 情報処理技術者試験 テクニカルエンジニア（データベース）
- 情報処理技術者試験 テクニカルエンジニア（ネットワーク）
- 一般社団法人 日本ディープラーニング協会 G検定
- Project Management Professional (PMP®)



株式会社アイデミー
BizDev & Communication部
GX関連新規事業責任者
柳田 晃輔

— 略歴

- 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
省エネ関連の技術開発支援
- 経済産業省 資源エネルギー庁
再エネ・水素関連の国際協力業務
- コンサルティング企業
VPP・クレジット関連の新規事業企画支援
- 202X年XX月 アイデミー入社。

講師を務めるプロフェッショナル



株式会社アイデミー
法人デジタル人材育成事業部
研修・コンサルティンググループ
小田 千晴

— 略歴

- ・ 製造業にて、DX推進のための人材育成研修の企画運営及び講師業務、製造、開発、マーケティング部門における各種データ分析を担当。
- ・ 製造系では良品条件分析、異常検知、画像検査の現場実装の支援などに従事。

— 専門領域

- ・ DX・AI・先進技術を活用した改善
- ・ DX推進のための人材育成研修の企画運営
- ・ センシングデータのAI・機械学習による分析

—過去に関与した案件の一例

- ・ 画像認識技術を活用したFRP製品の表面欠陥判定
- ・ 製造良品条件分析アプリ開発
- ・ 時系列データによる異常検知モデル開発
- ・ ラインシミュレーションによる工程設計および作業性検討
- ・ データサイエンス入門研修企画運営と講師 プロジェクトリード



嘉戸 裕希

— 略歴

- ・ 株式会社アイデミー元執行役員CDO
- ・ 大学在学中からエンジニアとして開発に従事。
- ・ モバイルベンチャーやSaaSベンチャーでのCTO、AccentureのITOのPMおよびPMO、リクルートライフスタイルの新規事業開発部門の開発部門責任者、PKSHA Technologyの自然言語処理部門の子会社であるBEDOREにてPdM、ソフトウェア開発子会社のPKSHA xOpsでエンジニアとして活躍。

— 専門領域

- ・ 開発業務全般
- ・ 大規模プロジェクトマネジメント
- ・ スクラムを中心としたアジャイルプロセス
- ・ DX、AI、機械学習、データサイエンス、数理統計
- ・ 特に自然言語処理、ボードゲームのプレイやAI

—過去に関与した案件の一例

- ・ 対話エンジンのリードプロダクトマネジャー
- ・ 自然言語処理を活用したプロジェクトのマネジメント
- ・ 機械学習運用効率化のソフトウェア開発、クラウド設計
- ・ 位置情報を活用したサービスの技術開発、エンジニア組織マネジメント
- ・ SaaS CRMプロダクトのスクラムマスター

